

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191600095		
法人名	(株)寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム上尾		
所在地	埼玉県上尾市大字地頭方431-1		
自己評価作成日	令和 5年 2月 25日	評価結果市町村受理日	令和 6年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの食堂には利用者と共に作った季節に合った飾り物や行事ごとの写真を飾っている。利用者の生き生きとした笑顔が写真に写っている。職員は利用者の生い立ちや趣味嗜好なども情報共有し、歌やカラオケ、お手玉など懐かしい遊びや演歌などを楽しんだり、会話の中に田舎の話を取り入れるなど家族のような関係を持ちながら一緒に生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念として 1. 一人ひとりが役割や生きがいを持てる暮らしを支えます。2. 認知症の方の心理を理解したケアに努めます。3. 居心地の良い癒しの空間を提供します。4. 家族、地域と共に支えあう施設づくりに努めます。を掲げている。職員は帰宅願望が強い人には一緒に事業所の周りを歩いて気分転換をしてもらったり、常時見守りが必要な人には職員が声を掛け合い、気持ちが落ち着くまで話をしたりと利用者に寄り添ったケアをおこなっている。出勤時には利用者に挨拶をして顔色を確認し、言葉が困難でも話しかけて「何かしたいことありますか?」「一緒にやりましょう」と接している。地域との付き合いでは隣接する保育園の園児の姿に癒され、自治会から夏祭りの情報をもらったり、敬老の日には記念品とお菓子を贈られたりと良好な関係である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、運営方針は各ユニット、事務所内に掲示し、職員は業務の中で理念を意識しながらサービスの提供が出来るよう努めています。	理念を基に利用者ができることはしてもらい、網戸の張替えを手伝ってもらったり、職員と一緒に近所へ買い物に行ったりしている。一人ひとりが役割や生きがいを持てるように支援をしている。	現在の事業所理念をより具体的に分かりやすいものに作り直し、ユニットごとの目標も作ってケアに反映させたいと考えている。早期実現を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴、洗濯物や布団干しなどを通して近所の方と挨拶を交わすことがあります。	散歩や外気浴時に隣接する保育園の園児に手を振ったり、近隣の人と挨拶を交わしている。コロナ禍前は市の相談員やよさこい踊り、オカリナ演奏のボランティアが訪れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に見えた方や近所の方などに認知症やGHIについて説明をさせて頂いています。職員の経験談などを御話することで認知症への理解を深めて頂くよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設からは現状や活動報告をし、自治会や行政からは意見や情報共有をして頂き、サービス向上に活かしています。2ヶ月に1回を定期的に開催しています。	2か月に一度、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長の参加を得て開催されている。市外からの入居相談への対応や介護タクシーの利用方法等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から電話や市役所へ出向き、関係を築いています。現状では報告などもFAXや電話などで対応しています。定期的にマスクやグローブの提供もあります。	市の窓口へは介護保険の更新や各種書類の申請で訪れている。事業所の近況を報告し、相談にもものってもらっている。ファックスで市主催の研修の情報を受け取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会において、状況の確認及び見直し、勉強会を行っています。利用者の安全を重視した上で身体拘束にならないケアに努めています。	3か月に一度、委員会を実施している。職員は何が身体拘束に当たるかを周知しており、利用者を尊重した言葉遣いに努めている。常時見守りが必要な利用者には職員で話し合い工夫して、利用者の尊厳を守り、安全を確保したケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待やそれに関する記事などでの勉強会や事例検討会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用されている方もおり、施設内で勉強会を開くなど理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び家族に対し、十分に説明を行っています。また問題があればその都度説明し、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに相談窓口を設置しています。また利用者及び家族が意見や要望を気軽に言える関係づくりに努めています。またそれらの意見を運営に反映させていくようにしています。	コロナ禍以前は2か月に一度、家族会を開催して利用者の近況を報告し、意見や要望を聞いていた。現在は面会家族が増えて話を聞く機会が多く、事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議などで職員が自由に発言できるような機会を設けています。また、それらの意見は積極的に運営に反映させていくようにしています。	職員の意見から利用者の手の拘縮や食事の飲み込み状態等、緊急性の高いものは随時取り上げて対応している。食事のメニューや行事の計画は利用者の好みや希望を考慮して進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談を行い、職場環境の整備に反映させています。また行事などを職員それぞれが主催することで積極性や向上心を持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修のほか、施設内で勉強会など職員のスキルアップへの機会の確保に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡会において情報交換や事例検討会などを行い、お互いのサービスの質の向上に努めています。現状では行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状況、意見などを伺い、信頼関係を築いています。本人の様子を見ながら入居後に安心して生活できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望を伺い、信頼関係を築くようにしています。入居後もコミュニケーションを多くとり、本人が安心して暮らせるよう一緒に関わられる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御話をゆっくり聞きながら、その時に必要としている支援は何かを考え、他サービスに繋げることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫や洗濯物たたみ、料理の味見などその人が得意な分野においてお手伝いをお願いします。料理の手順や方法を教えて頂いたり、一緒に行くなどしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族との繋がりを大切に思っているよう家族との連携を作りながら一緒に本人を支えていける関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族、友人など面会しやすい環境を整えます。年賀状や御手紙が届いた時も返事を出すなどの支援をしています。家族と一緒に美容院に行かれたり、自宅に短時間戻る方もいます。	友人、職場の後輩、近所付き合いをしていた人が来訪し、利用者も懐かしく迎えている。家族と墓参りや外食、自宅へ行く人や職員同行で以前行っていたコンビニへコーヒーを飲みに行く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者間で会話が弾むような話題を提供したり、レクや行事を通して入居者同士が良好な関係を持てるよう支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に訪ねて頂いたり、連絡を頂いたり、相談を受けられるような関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人にお伺いしたり、日常生活の中から希望、意向の把握に努めています。定期的にカンファレンスを行い、職員間でサービスの提供が出来ているかを検討しています。	入居前の聞き取り内容を確認し、入居後は本人や家族から趣味や嗜好を聞いて一人ひとりに対応している。言葉が困難な利用者には表情やしぐさから気持ちをくみ取り、声かけをするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係事業所などから情報提供を頂き、生活の経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から本人のできることを、できないことを把握し、役割を持って頂くよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い、現状に見合った介護計画を作成しています。また医師や理学療法士などの意見を取り入れています。	長期6か月、短期3か月の見直しだが状況に変化があれば随時見直している。居室担当者をおき、日頃から職員全員で利用者を見て、一人ひとりに対応した個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状の変化や気づきは申し送りノートを活用し、ケアの統一化を図ると共に介護計画にも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人では眠れない方はフロアで休んで頂き、飲み物を提供したり、欲しいものを買って同行するなど状況に応じた対応を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民が声をかけて下さったり、友人や家族の面会から充実した暮らしが継続できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診したり、ホームの往診医にて対応しています。その都度変化があれば家族やホームの主治医から報告し、現状の共有に努めています。	月2回の内科訪問診療と月1～4回の歯科往診がある。毎週訪問看護師も来訪している。他科の受診は家族対応だが車椅子利用者には職員も同行している。24時間主治医に連絡が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師から連絡ノートを活用し、連携を密にしています。急変時には24時間体制で相談でき、適切なアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より相談員など病院関係者との連携を取っており、入院時には円滑に、また早期退院が出来るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針と本人、家族の意向の話し合いの場を持っています。また本人の状況により随時話し合いながらご希望であれば看取りも行っています。その他、病院や各事業所へ結びつけるなどの支援を行っています。	食事摂取が困難になったり医療行為が必要になった場合には医師、家族、事業所で話し合いをしている。職員は医師や看護師からアドバイスをもらい方針を確認し、利用者にとって最善のケアができるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による講習会をお願いしたり、独自に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、避難経路や自動通報装置の使い方などを再確認しています。近所の方や民生委員会などにも参加を呼び掛けています。	年2回、夜間想定も入れた避難訓練を実施している。水消火器を使い所要時間を計測している。災害などの緊急事態における事業継続計画作成し、2週間分の水や食料、衛生用品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、利用者を尊重した声掛けや対応をするように心がけています。「トイレ」ではなく昔の言い方や故郷の方言を使うこともあります。	個人情報のファイルやパソコン内の情報は厳重に管理している。トイレ介助時は小声でさりげなく誘い、衣服を下ろす時は声掛けをしている。入浴時はなるべく見ないようにして羞恥心への配慮に努めている、	利用者の尊厳より業務が優先にならないことを徹底する。入所希望者に対して職員が電話対応や見学時の説明が十分にできるようにしたいと考えている。早期の実践を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意見を確認しています。また本人が自分の思いを伝えやすい雰囲気づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先させるのではなく、利用者のペースを大切にしながら生活を送って頂くよう努めています。また、何か希望があればその都度対応するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を一緒に選んだり、訪問カットで好きな髪形にしてもらうなどもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや皿も工夫し、一人ひとりの状態に合わせて配膳していきます。入居者もおやつ作りや食器拭きなどを一緒に行っています。	季節を感じてもらえるメニューを提供している。利用者と一緒に白玉汁粉や甘酒等のおやつを作り、楽しんでもらっている。出前のお寿司やテイクアウトのハンバーガーや牛丼は好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分量を把握し、本人の意向を伺ったうえで食事形態や水分の種類などを変え、出来る限り召し上がった頂けるように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯洗浄をし、清潔に努めています。週一回の訪問歯科との連携により、口腔内の状態を把握し、助言を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が曖昧な方でも定期的にトイレへの誘導、声掛けを行っています。トイレまで歩いて座るといった行動もリハビリと考え、支援しています。	排泄チェック表を基に職員同士で確認しながらトイレ誘導をしている。夜間は自立の方は見守り、オムツの方は2～4時間毎に尿量に応じて確認している。病院退院後はリハビリパンツに戻す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配ったり、乳製品を召し上がって頂いたり、腹部マッサージ、お腹を温めるなどの工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に二回、その人の入りたい時間帯を考慮し、気持ちよく入浴して頂けるよう努めています。入浴剤や季節にあった湯などで楽しんで頂いています。	週2回、利用者の習慣に応じた時間に入浴してもらっている。入浴嫌いな利用者には足浴や着替えのために浴室に誘い、入浴してもらっている。敏感肌でマイシャンプー、石鹸を使う人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活環境を踏まえ、安心して眠れるような居室の環境整備や温かい飲み物をお出しすることや御話をゆっくり聞くなどの工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりか服薬、使用している薬について全職員が周知できるように見やすい場所にファイルを置いたり、申し送りノートを活用するなどして情報共有を図っています。変化があれば往診医、薬剤師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食器拭きなどできることを活かし、役割や生きがいをもって頂けるように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候などによっては散歩やドライブに出かけたり、家族と買物や外食を楽しく方もいます。	体調と天候をみて近所へ散歩に出かけたり、事業所の周りを歩き外気浴をしてもらっている。「いい天気」「寒いね」と朗らかに楽しんでいる様子がうかがえる。季節の行事として初詣やお花見にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を廃止し、立替金による支出となります。領収書を請求書に同封することで金額が明確化しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から電話やラインなどで御話することもあります。こちらから本人が電話することもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周囲には花などを植え、フロアは季節感のあるもので見やすく大きいものを入居者と一緒に作り、飾りつけをし、温かい雰囲気を出すようにしています。温度や光などは職員が管理し、随時対応しています。	朝日が差し込むリビングは心地よい空間になっている。室温やテレビの音量は利用者の声を聞いて調整している。フロアの一角にカウンターキッチンがあり、食事の準備の様子や香りを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のテーブルに利用者全員で集まり、会話を楽しんだり、テレビを見たり、カラオケを楽しまれています。そのほか、食堂や居室でそれぞれが穏やかに過ごせる空間づくりもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具など馴染みの物を置き、自宅と変わらない環境づくりによって、混乱なく落ち着いて過ごせるように工夫しています。	エアコン、照明、火災探知機、ベッド、カーテンが備品である。利用者にはテレビ、仏壇、家族の写真等好みの品を持ち込んでもらい、居心地よく暮らせるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前を貼り、動線を確保し、スムーズに生活が送れる工夫をしています。		